

三重大大学ベトナムフィールドスタディ
2018
報告書



2019 年 3 月
三重大大学ベトナムフィールドスタディ 2018
参加者一同

目次

巻頭言.....	2
はじめに.....	3
I. 概要	4
1. 実施概要.....	4
2. 全体日程.....	5
3. 参加者氏名.....	6
4. 受入れ先基本情報.....	6
5. ベトナム基礎情報.....	7
II. 事前準備	8
III. 訪問先・授業参加報告（感想）	9
1. 水上人形劇、歴史博物館.....	10
2. クチトンネル、サイゴン大聖堂.....	12
3. 戦争証跡博物館、統一会堂.....	14
4. ベトナム語の授業、ベントイン市場.....	16
5. 日本語の授業に参加して.....	18
IV. 最終発表	21
1. 保健医療グループ.....	22
2. 食文化グループ.....	29
3. 農業グループ.....	33
4. 報告の様子.....	35
V. 全体の報告（感想）	37
阿部 まりや （医学部看護学科 2 年）.....	38
片岡 奈都実 （医学部看護学科 1 年）.....	41
佐次田 もも （生物資源学部生物圏生命化学科 1 年）.....	43
川原 峻 （生物資源学部生物圏生命化学科 1 年）.....	45
池貝 知広 （生物資源学部共生環境学科 1 年）.....	47
おわりに.....	50
VI. 巻末資料	51
1. 日本文化紹介	
2. ホーチミン市師範大学との合同グループ	
3. 修了証書授与式	

巻頭言

三重大大学の国際交流センターが独自に企画、実施しているベトナムフィールドスタディーツアーが本年度も無事終了しました。本ベトナムフィールドスタディーツアーは、専門教育に入る前の三重大大学の低学年の学生を主対象に、学部や専門分野を限定しないで参加してもらっていますが、海外、特にいわゆる発展途上国での異文化体験を自己形成に活用したり、将来、国際協力の方面での就職や貢献を目指したりしている学生にとっては得がたい貴重な経験が得られる非常に魅力的な国際的な研修事業です。

本年度も複数の学部から、学年も専門分野も異なる多くの学生が参加してくれました。現地滞在期間 10 日間ほどの決して長いとはいえない研修事業ですが、事前のベトナム語、あるいはベトナム文化に関する事前研修も含めて充実した日々であったと思います。無論ハイライトは、現地ベトナムの地で自ら考え出した課題をホーチミン師範大学の協力学生の人たちと共に考え、行動し、議論した体験だと思います。またその合間に食事や買い物、他愛ないおしゃべりの時間を共にし、交流を深めた体験も貴重な思い出になっていると思いますが、これらすべてが将来必ずや何らかの形で生きてくるものと確信しています。本報告書でも、参加学生達のそのような貴重な体験談や思いが熱く語られているかと思うので、彼らの言葉に耳を傾け共感して頂けましたら幸甚です。また改善すべき点等、小さなことでも何か気に着いたこと、あるいはご意見等ございましたら国際交流センターまでご連絡ください。

円滑な実施にご協力いただき、学生募集から学生引率等も含めて研修終了まで様々な形でご尽力いただいた教養協力院の奥田久春先生と地域人材教育開発機構 グローバル人材教育開発部門の松岡知津子先生をはじめ、実施に際しご協力頂いた国際交流センター関係教員、職員、そして何よりも現地ベトナムで本研修にご協力頂いたホーチミン師範大学日本学部および国際センターの先生方と学生諸氏に深く感謝致します。

国際交流センター長 吉松隆夫

はじめに

今回のベトナムフィールドスタディは3月10日から3月19日までの10日間行われました。当初は募集開始が遅れたこともあり、応募者が増えずに不安だったのですが、最終的に意欲的で積極的な5名の学生が参加することとなりました。

日越両国の関係はますます良好になり、2018年に来日したベトナムの人は39万人で、日本への留学生も2018年5月には7万人を超えるなど毎年右肩上がりで増えています。また日本からベトナムへの渡航者数は2018年では83万人と増える一方です。一方で日本からの留学はまだ少ないですが、短期研修はとても盛んに行われています。こうした日越間の発展のためにも今回参加した学生は貢献してくれるものと思います。

このフィールドスタディでは学生が主体となって調査のテーマや方法を考え、日本人学生とベトナムの学生がともに話し合い、調査を実施し、とりまとめ、発表するようにしています。またその中で一緒に共感したり悩んだり、アイデアを出し合ったりして、共に学び合うことを目指したものです。

学生たちの関心がまとまりやすかったので、ある程度、テーマを絞ってベトナムに行くことができました。そして初日からベトナムの学生との話し合いをしっかりと行っていました。もちろん自分たちの意見や主張を伝えることの難しさを実感していたようです。そうした中からコミュニケーションの大切さを学んでくれたようです。

今回から、日本語授業に参加するプログラムを入れました。引率して下さった松岡先生の日本語授業にも一緒に受講し、また日本文化のプレゼンテーションもしてもらいました。日本のことを伝えることの難しさを感じたと思いますが、しっかりと自分の言葉で語っていたのが印象的でした。

今回もベトナム戦争証跡博物館、統一会堂、クチトンネルの訪問、水上人形劇の鑑賞を通じてベトナムの歴史や文化を学びましたが、ベトナムの学生も一緒に来て、まだ流暢ではない日本語で一生懸命に案内や通訳をしてくれました。またベトナムの学生がベトナム語の授業をして下さり、楽しく教えてくれました。そうした姿勢に刺激を受けたようです。

学生たちの最終発表の特徴は、日本とベトナムとの比較が見られたことです。比較から何が言えるのかまで考察できれば、更に発展した研究になると思いましたが、限られた時間の中でしっかりとベトナムに向かい合ったことは十分に評価できることでしょう。

この報告書は、こうした学生たちがベトナムで真摯に取り組んだ感想が率直に述べられています。是非、学生たちが何を学び得たのかを読み取っていただければ幸甚です。

最後になりましたが、このたび受け入れて下さったホーチミン市師範大学の日本語学部長のChi先生、Nga先生など先生方や学生の皆さん、またプログラムの実施に向けて支援をくださった本学国際交流前センター長の堀先生、現センター長の吉松先生をはじめ国際交流チームの方々、その他ご協力くださった全ての方々に深く感謝申し上げます。

(奥田久春)

I. 概要

1. 実施概要

実施期間：2019 年 3 月 10（日）～3 月 19 日（火） 10 日間

引率者： 吉松 隆夫 生物資源学部 教授 学長補佐（当時）、現副学長（国際交流）
松岡 知津子 地域人材教育開発機構 兼国際交流センター 准教授
奥田 久春 教養教育院 特任講師

行 先：ベトナム社会主義共和国 ホーチミン市

訪問先：ホーチミン市師範大学

プログラムの目的：

協定大学であるホーチミン市師範大学での授業や学生交流、フィールドスタディ、ホームステイの経験を通して、グローバルな視点や国際感覚を持ちながら主体的に行動し、参加メンバーと協力しながら活動を進め、また異文化にあって積極的にコミュニケーションを図ろうとするグローバル人材に求められる能力・資質を育成する。

プログラムの概要：

（1）ホーチミン市師範大でのベトナム語語学・文化学習

協定校であるホーチミン師範大日本語学科にて、ベトナム文化理解、語学学習。

（2）フィールド調査の実施

ベトナムの様々な問題について学生主体で問いを立て、師範大学のベトナム学生とグループになって、検討、調査を計画し、訪問や聞き取り、アンケートなど現地調査を実施する。最終日に発表会を開催。

（3）施設訪問その他観光名所も訪問予定。

フィールド調査以外に、ベトナムの平和や歴史を学ぶためにベトナム戦争証跡博物館、歴史博物館、クチトンネルなどを訪問、水上人形劇を鑑賞。

（4）学生との異文化交流

師範大生とキャンパス内外で行動を共にすることで異文化交流を図る。なお、当初予定されていた師範大生宅でのホームステイは受入側の人数が少なく中止となりました。

参加費用：航空券代、海外旅行保険代、宿泊、食費等含め、計 15 万円ほど自己負担
（車輛借上や、研修に係る入場料等の費用は大学負担）

募集方法：2018 年 11 月 29 日に募集説明会を実施。全学の学生に公募。参加動機とベトナムについて関心があることを記述して応募。

2. 全体日程

月日	時間	内容
3月10日 (日)	8:00	中部国際空港集合
	10:00	中部国際空港発 (VN341)
	14:20 頃	TSN 空港到着
	16:00 頃	中央郵便局、サイゴン大教会見学
	17:30 頃	ホテルチェックイン
3月11日 (月)	9:00～9:30	開講式：C1009 教室、Ms. Nga、ホーチミン市師範大学生
	9:30～11:30	オリエンテーション、学生交流、フィールド調査打合せ
	11:45～13:00	昼食（大学の食堂 各自）
	13:00～15:00	ベトナム語学習（ホーチミン市師範大学生）
	15:30～17:30	ベントイン市場、ドンコイ通り
3月12日 (火)	9:30～11:30	フィールド調査（1） C1009 教室も利用可
	11:30～12:45	昼食（大学の食堂 各自）
	13:00～14:30	統一会堂（ホーチミン市師範大学生も同行）
	15:00～16:00	戦争証跡博物館（ホーチミン市師範大学生も同行）
3月13日 (水)	9:30～11:30	2年生の日本語授業に参加（松岡先生）
	11:30～15:00	フィールド調査打ち合わせ、昼食、自由行動
	15:00～16:00	歴史博物館（ホーチミン市師範大学生も同行）
	17:00～18:00	水上人形劇（ホーチミン市師範大学生も同行）
3月14日 (木)	9:30～11:30	初級日本語クラスのアシスタント（1,2年生の学生と一緒に）
	午後	昼食（11:45～12:45）後 フィールド調査（2）
3月15日 (金)	午前中	フィールド調査（3） 適宜昼食
	14:30～16:30	学生交流（3年生の学生と一緒に日越文化紹介）
	17:00～18:00	サイゴン国際学校幼稚園訪問
3月16日 (土)	8:00～	クチトンネル（ホーチミン市師範大学生も同行）
	13:00	イオンモールで昼食
	15:00 頃	ホテルに帰着 その後 自由行動
3月17日（日）	終日	自由行動
3月18日 (月)	9:30～11:45	最終発表の準備 C1009 教室 適宜昼食
	13:00～15:00	最終発表会・修了式
	16:00～	ホテルに戻り帰国準備
	17:00～	空港へ移動 イオンショッピングモールにて夕食
3月19日 (火)	0:25	TSN 空港発 (VN340)
	7:35	中部国際空港着 解散

3. 参加者氏名

	氏名	学部	学年
1	阿部 まりや	医学部看護学科	2 年
2	片岡 奈都実	医学部看護学科	1 年
3	佐次田 もも	生物資源学部生物圏生命科学科	1 年
4	川原 峻	生物資源学部生物圏生命科学科	1 年
5	池貝 知広	生物資源学部共生環境学科	1 年

応募申請順。また、上記の所属、学年はベトナムフィールドスタディ参加当時のものです（以降、本文中も同様、現在はそれぞれ進級しています）。

4. 受入れ先の基本情報

受入大学：ホーチミン市師範大学 Trường Đại học Sư Phạm TP. Hồ Chí Minh

英語名：Ho Chi Minh City University of Education

- 1976 年開学
- 教育大学（21 学部、11 専攻、32 コース）
- これまでの卒業生：53,646 名
- 学生数：14,378 名（留学生：100 名）

住所：280 An Dương Vương, Phường 4, Quận 5, TP.HCM

URL：<http://hcmup.edu.vn/>（2018 年 3 月 31 日閲覧）

今回主にお世話になった先生

Cao Le Dung Chi 日本語学科長

Le Thi Hong Nga 日本語学科



5. ベトナム基礎情報



Google Map

人口：約 9,370 万人（2017 年、ベトナム統計総局）

都市：ハノイ（首都、約 650 万人）、ホーチミン市（約 720 万人）、

ハイフォン（約 190 万人）カントー（約 120 万人）、ダナン（約 90 万人）

民族：キン族（86%）、53 の少数民族

言語：ベトナム語

宗教：仏教、カトリック、カオダイ教

政体：社会主義共和国

元首：グエン・フー・チョン国家主席

政権：ベトナム共産党 党首グエン・フー・チョン書記長

首相：グエン・スアン・フック首相

産業：農林水産業、鉱業、工業

GDP：約 2,235 億米ドル（2017 年、ベトナム統計総局）

一人当たり GDP：2,385 米ドル（2017 年、ベトナム統計総局）

経済成長率：6.81%（2017 年、ベトナム統計総局）

通貨：ドン

出典：外務省 HP（<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vietnam/data.html>）

（2019 年 1 月 21 日閲覧）

ホーチミンについて

- ・ホーチミンとは人名
- ・ベトナム建国の父「ホー・チ・ミン」にちなんで、1975年5月1日に改称
- ・旧市名は「サイゴン」
- ・フランス領インドシナ、南ベトナムの首都だった
- ・ベトナム最大の都市
- ・東洋のパリと称されたフランス統治時代の頃にある建築物が残る

Ⅱ．事前準備

ベトナムフィールドスタディでは、メンバー決定から出国までの期間に4回の勉強会を開き、準備を進めてきました。勉強会の内容は以下の通りです。

- 第1回勉強会 1月15日（火）18：00～19：30
参加者自己紹介、概要説明と旅程の確認、現地の文化や大学周辺の地理の紹介、海外旅行保険の申込手続き、海外渡航届の説明、事前勉強会の日程調整、事前学習として「ベトナム料理」（川原）、「観光」（阿部、佐次田、池貝）、「おみやげ」（片岡）を調べてくることとしました。また、各自の興味・関心に基づいたフィールド調査のテーマとして大まかに、「保健医療」（阿部、片岡）、「食品開発・食文化」（川原、佐次田）として、訪問先や調査内容を検討していくこととしました。
- 第2回勉強会 1月22日（火）18：00～19：30
「ベトナム料理」について川原さんが調べた内容を報告しました。空港までの行き方の確認、ベトナムの歴史について説明をしました。フィールド調査のテーマとして「上水施設」（池貝）を加えるとともに、それぞれ内容の話し合いをしました。航空賃と予約手続き、宿泊代、パスポートの写しの提出など必要手続きを伝えました。
- 第3回勉強会 2月12日（火）18：00～19：30
「観光」について阿部さん、佐次田さんが、「おみやげ」について片岡さんが調べた内容を報告しました。携行品や緊急連絡先、Wifi、両替、タクシーの乗り方についての説明をしました。フィールド調査のテーマを話し合い「食品開発・食文化」（川原、佐次田）を「食文化」とすること、「上水施設」（池貝）を「農業」とすることと、更に内容を検討していくこととしました。ホームステイが中止になったことを伝えました。
- 第4回勉強会 3月5日（木）18：00～19：00
「観光」について池貝さんが調べた内容を報告しました。海外安全渡航について国際交流チームの竹島課長の用意された資料を用いて説明をしました。集合時間と場所など最終確認をしました。
- 上記に加えて、今回からベトナム留学生によるベトナム語講座を6回開催しました。
1月15日（火）、16日（水）、22日（火）、23日（水）、29日（火）、30日（水）
いずれも12：10から1時間弱行い、発音、人称、挨拶、数やお金の数え方、道の聞き方、タクシーの乗り方などを学びました。

Ⅲ．訪問先・授業参加報告（感想）

各訪問先の概要やホーチミン市師範大学での授業を受講した内容や感想です。
なお、フィールド調査に伴う訪問先についてはⅣ章やⅤ章で報告されています。

1. 水上人形劇、歴史博物館

生物資源学部 共生環境学科 池貝 知広

約 10 日間の海外「ベトナム」の滞在。長いようで短かったこの期間中、僕は様々な初体験をしました。今回報告するのは 10 日間の中間地点、4 日目に行った歴史博物館と水上人形劇について紹介していきます。

まず水上人形劇についてです。普通の人形劇と大きく違うことは、なんといっても、人形劇が水の上で繰り広げられること。水の中にいるのは人形だけではありません。人形遣いも全身びしょびしょになりながら 1 時間、水の中で人形を動かします。僕が行ったのは「ロンヴァン水上人形劇」で、近くにはベトナム戦争の悲惨さが物語られた「ベトナム戦争証跡博物館」や、南ベトナムの官邸として使用された「統一会堂」など、観光スポットが多く立ち並びます。以下で、水上人形劇で見たことを再現していきます。

バスがロンヴァン水上人形劇につき、僕は寝ぼけながらバスから降りると、ちょっとボロい何やら怪しげな人形と、アオザイを着た美人のお姉さんと男の人が入り口で待っていた。男の人に案内されると、中は暗がりの部屋で、彩り豊かなランタンの明かりだけがきれいに灯る、小さな映画館のような場所が広がっていた。最初部屋はガラガラだったが、開演直前になると、西欧系の人、日本人っぽい人など、多くの観光客が続々と入ってきて、あっという間に場内は、ほとんど



観光客で、満員近くまで埋め尽くされた。開演時間になると、赤い幕が左右に開き、正面には濁った小さいプールのようなものと、後ろに荘厳な神社のようなものが、サイドには、太鼓やこと、ドラ、三味線や笛のようなものを演奏する人たちが座っていた。楽器を演奏する人はまるで声優だ。人形たちに声が吹き込まれ、人形達は話をし、「やー」とか「よいよいよい」といったようなユーモラスな掛け声を上げるようになる。劇は全くつながりのない 16 のショートストーリーが次々と繰り広げられ、人形の魚が本当に泳いでいるみたいな動きをしたり、人々がユーモラスな動きをしたり、ドラゴンが水や火を噴いていた。人形遣いと人形は垂れ幕で仕切られており、直接人形は見る事が出来ないように思われるが、人形たちは息の合った動きをしていた。僕が 1 番気に入ったのは「アヒル農法と狐狩り」で、狐が農家のアヒルを襲うストーリーだ。子連れのアヒルが泳いでいると、そこに狐がやってきて、アヒルを 1 匹食べてしまう。怒った農家は棒のようなもので狐を退治しようとする。しかし、なかなか攻撃は当たらず、狐が棒に当たる寸前のところで攻撃がかわされたり、農家同士で殴り合ったりしてしまう。1 番驚いたことは、狐が思いつきもしないような場所へ逃げていくこと。

実際に見てほしいのでネタバレはここまでにしたいと思います。ひとこと僕が言いたいこ

とは、伝統的な人形劇と聞くと堅苦しい感じがしますが、水上人形劇は、全くそのような重々しい雰囲気が感じられず、いろいろ工夫が凝らされていて、この文章で述べた以上の発見や独特の雰囲気、そして、笑いのある劇を味わう事が出来ます。

続いては、歴史博物館です。外観は博物館というより、周りが外壁に囲まれていて、中で大勢の人がカンフーをやっているような、中国風の城っぽい建物でした。バスから降りてまずびっくりしたのが、宝石屋の前にあった虎の置物、の上に大きな石が乗っているものでした。最初から驚かせて



くれる、ワクワクの止まらない歴史博物館。おそらく、展示物は、中国から伝えられた仏教にまつわるものが大半だったと思われます。漢字の書かれた古銭や、ゾウの牙がついた像など、いろいろなものが展示されていました。今回は、僕が個人的に心に残った展示物ベスト4を紹介していきたいと思います。

1つ目は、いろいろな仏像たちです。博物館の室内に入って最初に出迎えてくれたのは、大きな仏像でした。入ってすぐに仏像ルームがあり、中央にその大きな仏像、周りには小さな仏像たちが展示されている、仏像に囲まれた空間が広がっていました。その部屋以外にも、いたる部屋に仏像が置いてありました。セクシーに寝そべった仏像、手がいっぱい生えている仏像、首から上がないちょっと怖い仏像など、本当に多くの仏像が展示されていました。

2つ目はホーチミン像です。仏像ルームの次の部屋の、無駄に天井が高い部屋で、ホーチミンさんの像がありました。ホーチミンに来てから、お札や写真や像など、いたるところにいるホーチミンさん。例外なく歴史博物館にもしっかりといらっしやいました。

3つ目は、ファルスです。ファルスとは、そのことです。僕はもともとこのような石像が存在することを知らず、初めてその形を見た時、変な形をした像だなと思いました。よくわからなかったので調べてみると、思った通り、それが石像になったものらしく、力が抜けてしまいました。でも、仏教にファルスが関係しているのかと思うと、仏教って面白いなと思える、そんな興味を持たせてくれる像、ファルスだと思います。

4つ目は、ミイラです。怖すぎて、直視できませんでしたが、いつか夢に出てくるのではないかなと思えるような、本当に怖いミイラで、目に焼き付きました。ミイラは、入り口が1つの薄暗い部屋のど真ん中にガラスケースの中に展示されていて、1周回って、様々な角度から見る事が出来ます。今にも動いていきなり飛び掛かってきそうな、それほどはつきりと間近で見る事が出来るミイラでした。

全体的な感想とは、何が展示されているかよく分からないけれども、インパクトが強い見た目の物がたくさんあり、どの部屋を見ても全く飽きない、面白い場所でした。

最後に、水上人形劇と歴史博物館に連れて行ってくれた先生方、一緒についてきてくれてウォンさんヴォンさん、フィールドスタディに参加した三重大のみんなのおかげで、素晴らしいものを見ることができました。本当にありがとうございます。

2. クチトンネル、サイゴン大聖堂

医学部 看護学科 阿部 まりや

(1) クチトンネル

クチトンネルはホーチミン市の北西約 70km の場所に位置し、ホーチミン市街地からは車で、2 時間弱で行くことができる。

ベトナム戦争当時「鉄の三角地帯」と呼ばれ難攻不落として恐れられたクチを支えたのが、全長 200km に及ぶ地下トンネルだった。当時の米軍を翻弄したこの地下トンネルは、今ではベトナム解放勢力の英雄的象徴として保存され、人気の観光スポットとなっている。

クチトンネルでは、英語でガイドをしていただきながら、隠れ穴やトラップ、地下トンネル、当時の生活の様子（武器の製造など）を表現したジオラマを見学・体験した。

トラップはただの落とし穴ではなく、中に鉄の棘が仕込まれており、罠にかかったら棘が刺さり、抜け出そうすると余計に身体に食い込んで抜け出せないような仕掛けになっていた。説明を聞いたりイラストを見たりするだけで、これがとんでもない苦痛を与えるものであることが容易に想像でき、胸が痛くなると同時に、戦争の狂気を感じた。

隠れ穴は外から見て分からないように、蓋に落ち葉をたくさん載せてカモフラージュし、敵から身を守ることができる。体格の大きな米兵が出入りできないよう、入り口は大変小さく作られており、肩幅で目一杯であった。蓋をするために腕を通そうにも、バンザイをしないと引っかかってしまうほどであった。蓋をしてしまうと中は真っ暗闇で、圧迫感や恐怖感から、とてもストレスを感じる場所であった。



▲ 隠れ穴



▲ 落とし穴

地下トンネルも同様に、中は暗く狭く、中腰の姿勢でないと先へ進むことができないほどであった。また、少し離れてしまうと目の前の人の背中すらはっきりと見るができず、恐怖感もあった。今回のように非日常の一コマであればなんら苦痛はないが、この生活が毎日続き、そしていつ終わるのかもわからない状態であれば、かなりの苦痛とストレスを抱えた生活であるだろうと感じた。

今回の見学・体験を通して戦時中の生活や気持ちに触れ、戦争をするということがどういことなのか、これまでとは異なった視点から感じる事ができた。今までは想像することでは戦争を感じる事ができなかったが、隠し穴や地下トンネルの体験を通して、身をもって体感するという経験ができた。英語のガイドでは、聞き取る・理解することができない点も多かったので、英語をさらに勉強して、再度訪れてみたい。

(2) サイゴン大聖堂

正式名称は「聖母マリア大聖堂」で、ホーチミン市最大の繁華街であるドンコイ通りを北西に直進したところにある。

1877 年-1880 年にかけてフランスの入植者によって建築されたネオゴシック様式のカトリック大聖堂である。外壁用の赤レンガはマルセイユから取り寄せられたもので、建築時にコンクリートでのコーティングを行わなかったにもかかわらず、完成から 130 年以上経った現在まで、建築当時の鮮やかな赤い色を保っている。ステンドグラスには、フランス中部の都市シャルトルから取り寄せられたガラスが使われている。

サイゴン大聖堂は事前学習で自分が調べた場所だったので、実際に見に行くことができてとても嬉しかった。初日に先生含め全員で見学したのを含め、毎日のように見ていたが、何度見ても美しく立派だった。

しかし、2019 年 3 月現在、工事のため教会内部を見学することは叶わなかったため、工事が終了してから、ぜひ訪れたい。



3. 戦争証跡博物館、統一会堂

生物資源学部 生物圏生命化学科 川原 峻

(1) 戦争証跡博物館



戦争証跡博物館とは、1955 年から 1975 年にかけて起こったベトナム戦争の歴史を伝えるための博物館です。敷地内に入るとすぐに数多くの戦闘機や戦車、大砲、爆弾などを見ることができ、その迫力に圧倒されました。博物館の隣にはコンソン島刑務所の牢獄を再現した建物があり、当時の刑務所がどんな構造になっていたかを知ることができました。牢獄の中には動くマネキンがあり、劣悪な環境の中に閉じ込められている人がとてもリアルに再現されていました。博物館の中は3階まであって、銃器や爆弾、爆破された建造物の残骸などの遺物が多く展示されていました。他にも、ベトナム戦争に関連する写真が多く展示されていました。多くの展示物の中でも特に印象に残ったものが2つあります。1つ目はベトナム戦争で使用された枯葉剤の影響を受け、奇形になってしまった赤ちゃんのホルマリン漬けの標本です。その標本を見て、枯葉剤はそれを浴びてしまった人々を苦しめるだけでなく、その人々の子供たちにまで悪影響を及ぼす恐ろしい化学兵器だったということが分かりました。2つ目は、奇形になってしまった人たちの写真です。その写真はずっと見ていくことができないほど悲惨なものが多かったのですが、大変な障害を持ちながらも懸命に生きようとしている人々の姿に胸が熱くなりました。この戦争証跡博物館の訪問によって、改めて戦争の恐ろしさを再認識し、我々のような若い世代が二度とあのような悲劇を起こさないようにしていくという意識が大切であると強く思いました。

(2)統一会堂



統一会堂とはベトナム戦争終結時までベトナム共和国(南ベトナム)の大統領府及び官邸とされ使用されていた建築物です。



サイゴンが陥落した時、大統領は屋上のヘリポートからヘリを使って逃げたそうです。そのヘリポートと実際に大統領が逃げる時に使ったヘリコプターも見ることができました。右の写真がそのヘリポートとヘリコプターです。

ベトナム戦争終結という大きな出来事が実際に起こった場所に訪問できたことはとても素晴らしい経験でした。

1975年4月30日、北ベトナム軍の戦車がサイゴン市内に突入し、当時の大統領府であったこの建物のフェンスを破って突入しました。それにより南ベトナムの首都サイゴンは陥落し、ベトナム戦争が終結することになりました。統一会堂では正門を入ってすぐにその戦車が展示されていました。左の写真は、その北ベトナム軍のソ連製の戦車です。



4. ベトナム語の授業とベントイン市場

医学部 看護学科 片岡 奈都実

(1) ベトナム語の授業

ホーチミン師範大学の学生が、ベトナム語の授業をしてくれました。私達三重大生に3、4人のベトナムの学生が先生となって、自己紹介、お金の数え方、市場などで値段の交渉の仕方を教えてくれました。自己紹介では、自分の趣味は、新しく学生に日本語からベトナム語に直してもらって、言えるようになりました。「よろしくお願いします」というのが、一番難しく、発音にも覚えるのにも苦労しました。また、ベトナムにも北部、中部、南部などの地方によって、方言がありました。私たちが覚えたのとは全く違い、おどろきました。その後、風船を使って、自己紹介ゲームをしました。風船を持っていた人と指名された人が自己紹介をしなければならなかったのですが、ベトナム人学生の先生のおかげでその時には、自己紹介ができるようになっていました。

次に、ベトナムのお金について教えてもらいました。ベトナムでは、硬貨がなく、日本よりも桁が多いのが特徴です。1万、2万、5万、10万、20万、50万ドンが主に使われています。お金の言い方、「高すぎる=Mac qua!」、「他の店に行きます=Tôi đi chỗ khác」など買い物で使えるフレーズも教えてもらってから、買い物の練習をしました。

一部の学生がお店の人の役をやってくれたりして、教室が一瞬で市場のように活気あふれる場所となりました。最初は、「10万ドン」と言われても高いとか安いとか、金銭感覚がわかりませんでした。ベトナムの学生が、半分より少し高い値段から言い始めてくれたりするなどサポートしてくれました。値段を交渉するのに慣れていて、見とれてしまいました。何度かやっているうちに、

自分一人で勉強するのと、教えてもらいながら楽しく勉強するのとは、覚える量も違ったり、忘れにくいのではないかと感じました。



(2) ベンタイン市場

ベンタイン市場は、ホーチミン市最大の市場とされています。食べ物、Tシャツ、サンダル、雑貨、さまざまなものがそろっている市場です。また、店同士がびったりとくっついてたくさんの店がならんでいるので、迷路のようでした。ホーチミン師範大学の学生も一緒に来てくれました。学生も迷子になりそうと言っていました。

市場の中へ進んでいくと、いろんなところから「何が欲しい?」、「かばんどう?」などと日本語で話しかけられます。最初は、ドキッとしてしまいました。一緒に来てくれた学生が、気になるものとかあったら、値段を聞いてくれたりして、とても頼りになりました。ベンタイン市場では、観光人の方も多く、ベトナム人は、あまりここでは買い物をしないそうです。

食べ物街に行くと、ドリアンの匂いが広がっています。このベンタイン市場で売っているものの値段は、高めです。そのため、お買い物をするだけでなく、値段交渉をすることも楽しみの一つとなっています。しかし、値段交渉をするのも、簡単ではないようです。私は、ここでは、何も買いませんでしたが、ベトナムの市場の雰囲気を感じることができて、良かったです。



5. 日本語の授業に参加して

生物資源学部 生物圏生命化学科 佐次田もも



私たちは、ホーチミン師範大学の日本語学部の学生の受ける日本語の授業にいくつかに参加してきました。ベトナムに到着してから、初めての授業は松岡先生のクラスでした。三重県に関するクイズや「嘘つき自己紹介」をしました。三重県に関するクイズでは、松岡先生のきれいな日本語が印象的でした。日本語を習ってまもない学生でもわかるように、文節で区切って話すことや、難しい日本語を簡単に言

い直すこと、キーワードとなるフレーズをゆっくり強調して話すことなど、その後のベトナムの学生とコミュニケーションをとる上で参考になりました。「嘘つき自己紹介」は自分の自己紹介の中に一つだけ嘘の事柄を入れます。自分以外のグループのメンバーで質問し反応を見ることで、どれが嘘か見破るというゲームです。このゲームでは、自己紹介の内容についてベトナムの学生とたくさん話ことができました。ベトナムの学生が何を伝えたいのかわからないときや、逆に自分の伝えたいことが伝わらないときがあり、困ったときもありました。しかし、お互いに



ジェスチャーや絵を駆使してコミュニケーションを図りやつの思いで伝わったときは達成感を感じるとともに心が通った感覚がしてとても嬉しい気持ちになりました。この授業を通して、自分の国の言語ではない言語をしゃべるとき豊富なボキャブラリーはもちろん大切ですが、失敗を恐れず伝えようとする気持ちがコミュニケーションの第一歩であると感じました。

他の授業では、日本人アシスタントとして二つのグループに分かれて日本語のクラスにアシスタントとして参加しました。日本語のテキストを何度も何度も読んで練習していました。私たちは、イントネーションを教えることや、話し言葉の説明をしました。その後、日本で放送されているニュースを視聴しました。その内容は、日本の環境問題についてでした。日本の環境問題と、ベトナムの環境問題についてディスカッションしました。日本の現状を教えることになりました。そこで私は三重大学のごみの分別の取り組みや、レジ袋を使わないことなどを話すとベトナムの学生は驚いていました。「ベトナムではリサイクルする





施設が少なく、分別することはほとんどない。」と話してくれました。そのうえで、日本もベトナムも、水筒を使うことやポイ捨てしないことやレジ袋をもらわないなどの一人一人の意識の持ちようで環境問題に対処できると結論付けていました。この授業では、日本にいて、日本人としかかかわらない日常では得られない、ベトナムにいるか

らこそその体験ができました。日本のことを紹介することが思いの外難しく、思い通りにいかず悔しい思いをしました。またベトナムの学生に聞かれたことに対して、自分の知識を絞り出して答えたものの、後から「もっとほかの言い方があったのではないか」と思うことや「この情報も伝えたかった」などやりきれなかったことを反省しました。ベトナムの学生は私たちの質問にも答えてくれ、ベトナムの現地の人しか知らないようなことを教えてくれました。ほかの国の学生とディスカッションをしたことがなかったので、とても貴重な経験になりました。

日本語の授業を通して、ベトナムの学生とよく将来の夢の話になりました。私が、「将来、なにをしますか？」と何人かに聞いたところ、ベトナムの学生は「アナウンサーになりたい。」「大学で日本語を教える先生になりたい。」「翻訳の仕事をしたい。」と話してくれました。一方で「まだ決めていない。」「わからない。」と答える学生もいました。実は私も、将来についてまだ決められていない学生の一人です。だから、将来やりたいことについて悩んでいるのは、やはり同じだなと思いました。

しかし、圧倒的に違うなと思ったのは、勉強に対する姿勢です。大学の勉強を頑張りたいから恋愛はあまりしないと話している学生や、平日は課題が多いので友達とは遊ばないという学生もいました。熱心に勉学に取り組む姿に、負けていられないなと思いました。

IV. 最終発表

各グループによる最終発表の資料です。

1. 保健医療グループ・・・阿部まりや、片岡奈都実
 2. 食文化グループ・・・佐次田もも、川原峻
 3. 農業グループ・・・池貝知広
- (ベトナム学生の氏名については巻末資料参照)

1. 保健医療グループ

ベトナムと日本の保健・医療状況 ホーチミン師範大学 チェン・タ・フエン・ヴィエン（4年生） ディン・サユイ・クエン（4年生） フィン・トック・パン（2年生） アイ・ニュー（2年生） 三重大学 阿部 まりや（2年生） 片岡 奈都実（1年生）	目次 • 1、はじめに • 2、ベトナムと日本の保健室の比較 • 3、175陸軍病院と三重大学病院の比較 • 4、日本とベトナムの食文化 • 5、保健医療 • 6、おわりに
--	--

はじめに • 目的 日本で看護の勉強をしているので、実際にベトナムの医療の状況を見たり、聞いたりして、日本とベトナムを比較したいから。 調査を通して、日本とは違う状況や文化があるということを知り、日本にいる多くの外国の患者さんに、少しでも安心してもらえるようなケアをしたいから	 ベトナムと日本の保健室の比較
---	---

ベトナムと日本の保健室の比較 ベトナム   部屋の中は涼しい 保健の先生いる  体重計 	日本の保健室  ベッドもある 保健の先生もいる   保健室は ベトナムも日本も似ている
--	---

 175陸軍病院と三重大学病院の比較 	175陸軍病院 • 2019年 5月26日 整形外科 open • 2022年 総合病院 1000床 open 工事中 →  
--	---

さくら介護研究センター



2017年に始まった

目的

- 1、看護師がトレーニングするため
- 2、他の大学や専門学校の人が使うため
- 3、ベトナム人が日本で働く前に、トレーニングする言語、文化、設備など
- 4、将来に向けて、人材育成をするサービスが大事だから



看護の実習室

電動式ベッド



気管挿管の人形



血圧計



介護の実習室

ストレッチャーになる車いす



練習用の人形
名前：けいこさん



食事の介護

モデルルーム

車いすの患者さんの入院するところを再現した部屋

トイレや、スロープなど車いすを使っている人に合わせた設備が整っている

スロープ



吸引器



トイレ



浴室の実習室

シャワー、浴槽、体の不自由な人でもお風呂に入れるように介護の仕方を学ぶところ



三重大学病院



スキルズラボ
看護師や、研修医がシミュレーターを使った技術とトレーニングを行うことができる



三重大学看護学科 基礎看護実習室



外来病棟

175陸軍病院



三重大学病院



軍人も、
一般の人
も一緒に
受付を
している



受付は、似ている

小児病棟



壁やドアに絵が描かれていた
一部室に4人ずつ
ベッドが不足しているため、
一部室6人部屋のところもある

日本でも、小児病棟には、子供たちが怖がらないように、壁やドアに、絵が描いてある

175陸軍病院

入院患者 1300～1500人

外来患者 2000～5000人

ベッド 1200床

看護師 850人

医師 550人

三重大学病院

1日平均 約582人

1日平均 約1327人

685床

700人

402人

ベッドは不足

どちらもがんの患者さんが多い

175陸軍病院の看護師の特徴

看護師が帽子をかぶっている

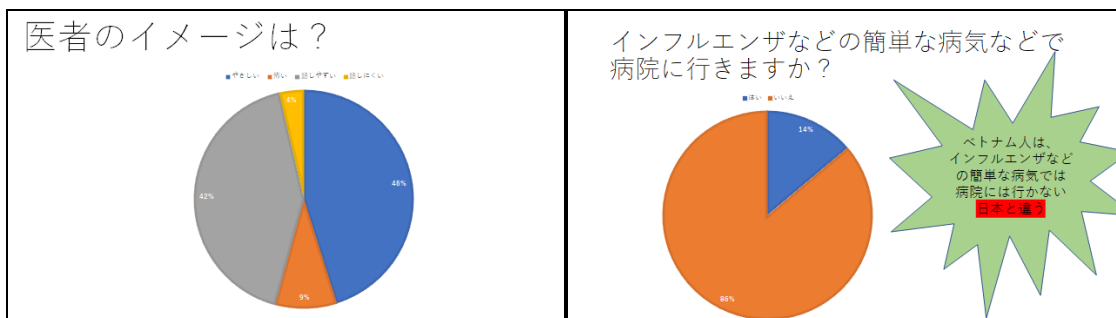
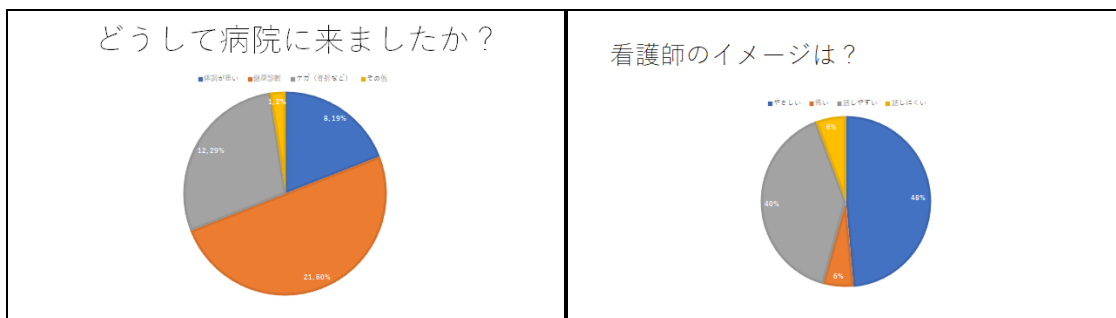
ピンク色のユニフォーム

看護師は帽子をかぶらない

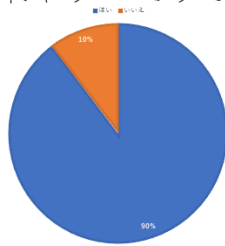
白色のユニフォーム

三重大学病院の看護師の特徴

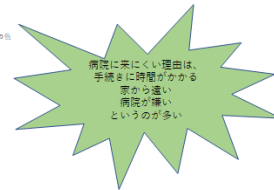
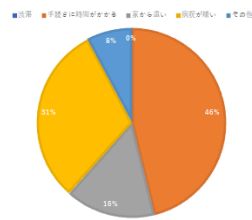
ベトナム人の病院でのアンケート



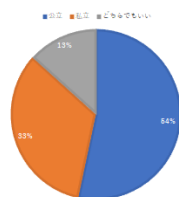
病院には来やすいですか？



なぜ病院に行きにくいですか？
(いいえの人)



公立と私立のどちらの病院に行きますか？



公立

安い

安心

保険証を使って病院に行く

私立

手続きや待ち時間が少ない

サービスが良い
看護師、医師がやさしい

保険証を使えない

日本とベトナムの食文化

健康的な食事、健康的な食事の習慣

1. 栄養バランスのよい食事のメニュー

・日本もベトナムも、ご飯（米）、みそ汁、野菜、肉・魚が入った食事が理想とされている。

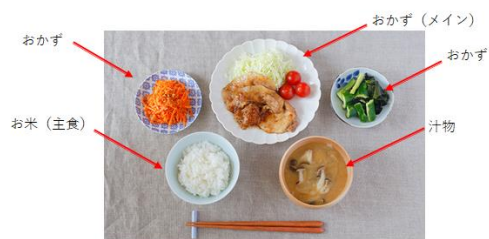


日本の食事



ベトナムの食事

・日本：「一汁三菜」（いちじゅうさんさい）



・ベトナム：食事には欠かせない ヌックマム



・魚を塩に漬けて発酵（はっこう）させた調味料。濃厚（のうこう）で、料理に塩味とうまみを加える。

・栄養面では、魚のアミノ酸やビタミンやミネラルがたくさん入った健康食。

日本の食事のメニューと、ベトナムの食事の基本的なメニューは似ている。

→ ご飯（米）、みそ汁、野菜、肉・魚

栄養バランスの良い食事にはそれぞれの国で特徴がある。

→ 「一汁三菜」、ヌックナム

2. 食事における健康の習慣

- 日本では、健康のことを考えるとき、食べる順番に気を遣



- 日本：野菜を最初に食べ、炭水化物（たんすいかぶつ）であるご飯やパンを最後まで残しながら食べる。→健康に良い（血糖値（けっとうち）の上昇を抑えることができる）

- ベトナム：おいしいもの・好きなものから食べ始める。

健康のことを考えた食べる順番はない。



日本人は、食べる順番で健康を気遣う

→ 野菜が最初、ご飯、パンはあと

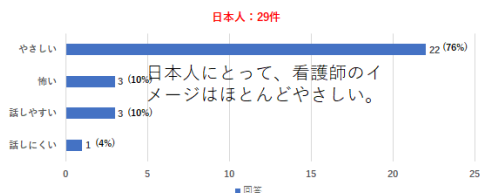
ベトナム人は、食べる順番で健康を考えることはない

→ 好きなもの、美味しいものから食べる

保健医療

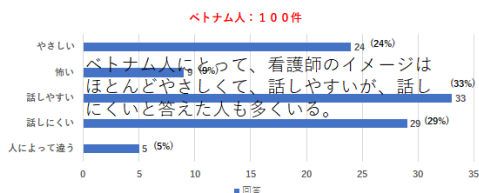
ベトナムと日本の保健医療の比較

看護師のイメージは？



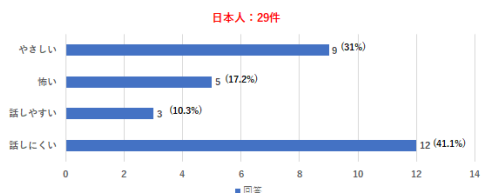
日本人にとって、看護師のイメージはほとんどやさしい。

看護師のイメージは？

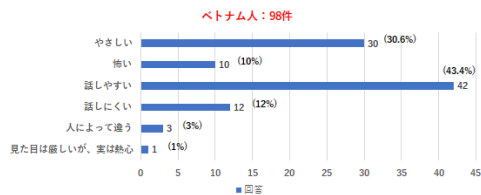


ベトナム人にとって、看護師のイメージはほとんどやさしくて、話しやすいが、話にくいと答えた人も多くいる。

医師のイメージは？



医者のイメージは？



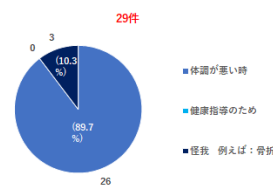
医者のイメージは？

看護師のイメージと違って、日本人にとって、医者のイメージは「話にくい」と多数答えられた。逆に、ベトナム人は医者がやさしくて、話しやすいと思う（72/98件）。



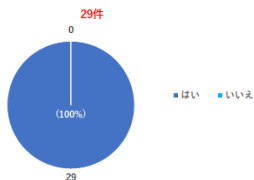
日本人のアンケート： 病院について

あなたはどのような時に病院に行きますか？



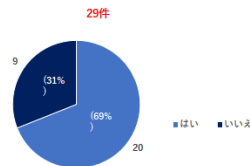
日本人にとって、健康が非常に大切なので、体と心が疲れた時、よく病院に行きます。

インフルエンザなどの簡単な病気で病院に行きますか？



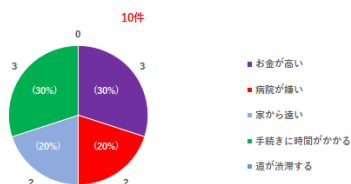
インフルエンザは危険ではないですが治らなければ、大変でしょう。

病院には行きやすいですか？



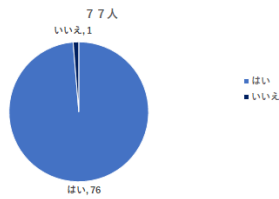
日本では、ベトナムと違い、病院に行くことは随分簡単です。しかし、人はそれぞれ理由があるので行かない場合もあります。

いいえの人：なぜですか？

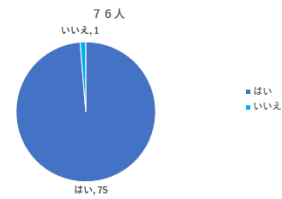


ベトナム人のアンケート： 保健室について

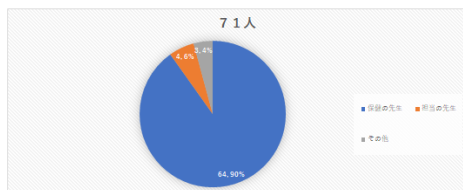
あなたが通っていた学校に保健室はありますか？



「はい」の人：保健室にベッドがありますか？

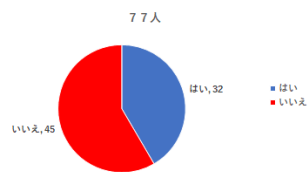


保健室に行く時、誰が世話してくれますか？



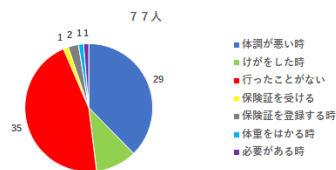
三つの図表によって、ベトナムの学校は、学生の健康に気配りすることがわかる。

学校では保健指導はありますか？（手洗いうがい、歯磨きなど）



多くの学校では、手洗い、うがいなどの正しい説明がない。正しい手洗い、うがいなどの知識がない。

保健室にはどんな時に行きますか？



学生の半数は保健室に行ったことがない。保健室に行ったことがある学生は保健室の使い方を知っている。

日本人とベトナム人の保健についての考え方の比較

- 日本人にとって 健康が非常に大切なので 体が疲れた時、よく病院に行く。
- ベトナム人は、自分の健康を大事にするが、学生に正しい保健を指導していない。

おわりに

病院について
ベトナムは、病院に行かない人が多い
特にインフルエンザは、日本人は簡単な病気とっていないので、すぐに病院に行く

食文化について
日本人は、健康を一番考える
ベトナム人は、自分の好きなものから食べる

学校の保健について
日本人は、保健室の使い方を知っていて、行きやすい
ベトナム人は、保健室の使い方をあまりわかっていない人が多く、半分以上が行かない

ご清聴ありがとうございました



2. 食文化グループ

私たちのテーマは、 . . .

食文化

グループメンバー



はじめに

発表の内容

- ベトナムと日本の食事のマナー
- ベトナムと日本の正月の食べ物

発表の目的

- ベトナムと日本の食文化を比べてお互いの国の共通点や相違点を見つけ、両国の文化を理解し合うことです。

調査方法

アンケート調査（ベトナム人30人と日本人30人にアンケートをしました。）

質問内容

1. 麺を食べる時に、音を立てて食べますか？
2. お酒を飲む前に、何回乾杯しますか？
3. 調味料の小皿は、皆で使いますか？一人ずつですか？

1. ベトナムと日本の食事のマナーについて

① 麺の食べ方について

調査結果

日本人用

①. 麺を食べる時に、音を立てて食べますか？



ベトナム人用

1. Khi ăn phở/bún/mì/súp, bạn có háp ra tiếng hay không?



日本の食べ方



ベトナムの食べ方



① 麺の食べ方の違い

②乾杯の回数について

調査結果

日本人用

②. 乾杯を飲む前に、何回乾杯しますか？



ベトナム人用
2. Trong bữa nhiều/uống bia, trước khi uống thường sẽ cùng ly bao nhiêu lần?



②乾杯の回数について

③調味料の小皿の数について

調査結果

日本人

③. 調味料の小皿は、皆で使いますか？一人ずつですか？



ベトナム人

3. Trong bữa ăn, bạn dùng chén nước chấm chung với mọi người hay dùng một chén nước chấm riêng?



日本の場合



ベトナムの場合



③調味料の小皿の数の違い

日本の食べ方



ベトナムの食べ方



④スープの飲み方の違い

⑤食事の時のあいさつ

日本 「いただきます。」

「ごちそうさまでした。」

→料理を作ってくれた人に感謝を示します。

ベトナム 北部 "Cháu mời ông/bà" "Con mời bố/mẹ" "Em mời anh/chị"

→順に年上の人へあいさつします。

南部 "Con mời cả nhà ăn cơm"

II, 日本のお正月の料理について

- 日本ではお正月におせち料理を食べます。
- おせち料理にはそれぞれに意味が込められています



黒豆

「まめ」という言葉には元々、「丈夫」「健康」という意味があります。また、まめに働くという言葉の語呂合わせでもあります。



えび

- えびは腰が曲がっているのですが、私たちも腰が曲がるまで長生きできるように願いを込めて食べます。



昆布巻き

- 昆布を食べると喜びの多い1年になります。という言葉「こ言葉」という言葉の発音が似ているからです。



数の子

- 数の子はニシンという魚の卵です。たくさんの卵があるので子孫繁栄を願って食べられます。



ベトナムのお正月の料理について

ベトナムでもお正月には特別な料理を食べます。



“Bánh chưng”

- 四角い形が大地を表し、もち米と緑の豆が穀物を、具材の豚肉が動物を、ラーソンの葉っぱが植物を表しています。昔が1年中豊かな食料に恵まれることを祈って食べられます。



“Bánh dày”

- 丸い形が空を表しています。天災がないことを祈って食べられます。



“Bánh tét”

- 南部で作られる料理です。“Bánh chưng”と同じ材料で作られますが、形が円柱です。



まとめ

	日本	ベトナム
茹の食べ方	箸を立てて食べます。	スプーンを使い、静かに食べます。
乾杯の回数	最初に一回します。	一回と三回する人が多いです。
調味料の小皿の数	一人ひとつずつ使うことが多いです。	箸で共有することが多いです。
スープの飲み方	器に口をつけて飲みます。	スプーンを使って飲みます。
食事のあいさつ	「いただきます。」「ごちそうさまでした。」	北部“Cháu mời ông bà”“Con mời bố mẹ” 南部“Em mời anh/chị” 中部“Con mời cả nhà ăn cơm”

感想

- 自分の国では当たり前のことが、他の国では当たり前ではないということが分かりました。
- 他の国の文化を理解することで、その国の人々と仲良くなれると思います。



ご清聴ありがとうございました。

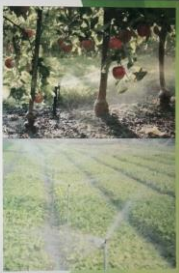
3. 農業グループ



1. スプレー

特徴:
❖ シャワーで水をまく方法だ。

メリット	デメリット
➢ 悪い天候の時でも水をあげることができる。	➢ コストが高い。 ➢ 地盤が壊される。 ➢ 栄養が流れる。



2. 滴下

特徴:
❖ 現代的な方法だ。
❖ 水道から水を落とすのだ。

メリット	デメリット
➢ 水を節約する。 ➢ 地盤と栄養が守られる。 ➢ 肥やしは流れられない。	➢ コストが高い。



3. 地下

特徴:
❖ 水道管とポンプのシステムは地下に設置される。

メリット	デメリット
➢ 水を節約する。 ➢ 地盤と栄養が守られる。 ➢ 肥やしは流れられない。	➢ コストが高い。 ➢ 柔らかい土しか合わない。



4. クリーク

特徴:
❖ 川から水をもらう。

メリット	デメリット
➢ 人がいなくても水をやる事が出来る。 ➢ 一番一般的な方法だ。	➢ 平地でしか使えない。




ドラゴンフルーツの育てかた



5. 浸水

特徴:
❖ 田んぼに水を張って育てる。

メリット	デメリット
➢ 土に住む害虫を殺す事が出来る。	➢ 水がもったいない。 ➢ 平地だけ ➢ 地盤が壊れる。




発表の様子



V. 全体の報告（感想）

ベトナムフィールドスタディ全体を通じた
メンバー一人一人の報告（感想）です。

ベトナムフィールドスタディを終えて

医学部 看護学科 阿部 まりや



私がベトナムフィールドスタディに参加した理由は、大学生の時間のあるうちに、一度は海外に行かなければ！という思いがずっとあったからです。

私の小学生のころからの友人は、大学進学タイミングでマレーシアに渡り、慣れない環境の中で授業にアルバイトにと自身の力でたくましく生活を送っており、日々私に刺激を与えてくれていました。それに比べて私は、人生で一度も海外に行ったことがなく、大学も実家から通えるところに進学し、自分の世界が狭いな、と感じていました。そんなときに、このベトナムフィールドスタディの募集メールを読み、現地の学生との交流という、普通の海外旅行では経験できないことがたくさんできるこの研修がとても魅力的だと感じ、応募しました。

・ベトナムの思い出

なんといっても、人生初の海外だったので、この10日間の全てが思い出になりました。現地に到着してすぐに熱気を感じ（3/10の現地の気温は36℃）、日本とは違う気候であると体感したこと、道路には数え切れないほどのバイクが走り、日本とは全く違う光景が広がっていること、ホーチミンの西洋風な雰囲気に触れられたことなど、初日から驚きや発見がたくさんありました。

2日目の夜までは引率の奥田先生・松岡先生とともに食事をしたり街を歩いたりしましたが、3日目からは学生だけでタクシーに乗って移動したり、バイクの中を横断したり、店に入って食事や買い物をしたりしました。初めこそ、タクシーは高くお金をとられないか、バイクに轢かれたりしないか、戦々恐々という感じでしたが、すぐに慣れて楽しむことができるようになりました。買い物や食事の場面では、店員さんの日本語がお上手な場合もあり、楽しくお話しすることもできました。

三重大大学のメンバー、先生方、師範大学の学生の皆さんとは、9日間様々な場所に出かけ、貴重な体験を本当にたくさんさせていただきました。

初日のサイゴン大聖堂・中央郵便局をはじめ、統一会堂、戦争証跡博物館、歴史博物館、水上人形劇の観劇、クチトンネルの見学など、とてもためになる体験ばかりでした。フィールド調査では、現地の軍事病院の見学に出かけたり、保育園にお邪魔したりしました。自由時間には、学生5人で日本での打ち合わせのときから楽しみにしていたアオザイの貸衣



装の体験に行ったり、スイティエン公園では、先生方も合流してワニ釣りを楽しんだり、ベトナムでしかできない体験を大いに満喫させていただきました。

・ホーチミン師範大学の学生との交流

師範大学の学生さんは、初日のお昼から一緒に学食の案内や食事をともにしてくださったり、統一会堂や戦争証跡博物館の見学では日本語でガイドしてくださったり、出国の前日にはプライベートの時間を割いて夕食に連れて行ってくださったりと、大変親切にしてくださいました。初めて会った私たちに、なぜそんなに優しくしてくださるのか、不思議に思うほどでした。



私は今まで、中学や高校に外国人の生徒や短期留学生が来ても、自分から話しかけることはなかなかできませんでした。言語に自信がないということはもちろん、外国の方、というだけで壁を感じていたのかもしれませんが、今回は自分が留学生の立場になってみて、初めての国での言語の壁や文化の違い、大学内の施設やルールなど、何もかもわからない時に声をかけてくださることがどれほどありがたいことなのか、身をもって感じることができました。

今回の研修でベトナムの方々に温かく接していただけたことは、私の中でとてもありがたく、日本に帰ってからの外国の方との接し方に変化を与えてくれる体験でした。大学内や街で出会う外国の方と、こちらから勝手に壁を作るようなことはしないで、積極的に声をかけたり、困っている様子であれば手をさしのべたりしたいと思います。

・今後の課題

ホーチミン師範大学の皆さんとの交流の中で私が強く感じたのは、思っていることを言葉で言えないということが、とてももどかしいことだ、ということでした。

師範大学の学生さんとの日常会話やフィールド調査でのディスカッションは、日本語学科の学生さんなので、基本的には日本語で行いました。しかし、日本語の微妙なニュアンスや難しい単語（私のグループは保健医療についてのトピックだったので、専門用語が多かったです）は簡単な日本語にするか、英単語にして話していました。しかし、どれだけ噛み砕いてもなかなか正確には伝わらないし、英語にしても、私の発音がカタカナ英語みたいなのなので、ほとんどの場合伝わりませんでした。少し覚えたベトナム語を話しても、こちらも発音が悪く、ほとんど通じませんでした。また、一度間違って伝わってしまうと、訂正するのがとても難しく、何度ももどかしい気持ちになりました。どうしても伝わらない、調査のためにこれだけは正確に伝えたい、ということはインターネットの翻訳に頼ってしまうこともありました。

しかし、師範大学の学生さんたちは、日本語を勉強し始めて日が浅い学生さんでも、な

んとか自分の話せる日本語で、言いたいことを私に伝えようとしてくださいました。私は、学生さんのその一生懸命さに感動し、こちらも自分の言葉で相手に伝わるまでしっかり伝えなければと、ベトナム語の本を読んだり、スマホにベトナム語のキーボードをダウンロードして少しベトナム語でやりとりしたりと努力しましたが、付け焼き刃の学習ではとても追いつきませんでした。相手はこちらの言語を学んで伝えてくださっているのに、こちらが伝えられないのは、とても申し訳なく、不甲斐ないと感じました。

生活の上で困るから、とか自分に不利益だから、という理由ではなく、今回は初めて、相手の方に思いを伝えたい、相手の方がこんなによくしてくださったから、恩返しをしたい、という気持ちで、言語を習得したいという思いが芽生えました。この気持ちを忘れないうちに、ベトナム語、そして英語の学習に励み、4月から三重大学に留学にいらっしゃる師範大学の学生さんたちにしっかりと思いを伝えられるようにしたいです。

・最後に

ベトナムでの10日間は、楽しかったこと、困ったこと、もどかしかったことなど全て含めて、人生で大切な経験になりました。これは、引率してくださった先生方、事前の学習会でサポートしてくださった先生方、ベトナム語講座でベトナム語を教えてくださった留学生の方、三重大学の参加者の皆さん、ホーチミン師範大学の先生方・学生の皆さん、現地でお世話になったたくさんの方々のおかげです。この経験を、将来の仕事やこれからの人生に必ず活かして生きていきます。

本当にありがとうございました。



ベトナムフィールドスタディに参加して

医学部 看護学科 片岡 奈都実

1. はじめに

この研修に参加することができて本当に良かったと思っています。なぜなら、ホーチミン師範大学で、たくさんのベトナムの学生と交流ができたからです。この交流を通して、ベトナム語や、文化や、食べ物など今まで知らなかったことを、知る機会となりました。また、フィールドスタディでは、ベトナムの病院、保育園に行かせていただいて、日本との共通点や相違点を自分の目で見て、発見できたからです。



2. ホーチミン師範大学での授業

日本語のクラスに入れてもらったり、学生から私達のためにベトナム語を教えてもらう授業をしてもらったりしました。ベトナム語の授業では、発音と声調に苦労しました。なかなか覚えられない私に、何回も教えてくれたりしました。難しかったけど、楽しくベトナム語を学ぶことができました。学生は、本当に日本語がとても上手で、母国語でない言語を今回出会った学生は、話せていてすごいと感じ、私に刺激を与えてくれました。もっとベトナム語を勉強したいなと思いました。日本語のクラスでは、日本の季節について話したり、日本の文化を紹介し、一緒に遊んだりして、この活動をきっかけにたくさん友達を作ることができました。ベトナムの学生からも、質問をしてくれたり、「ベトナムには、同じようなものある？」と聞くと、ベトナムでの遊びや、行事ごとなど、たくさん教えてくれたりしました。教えるだけ、教えてもらうだけで終わるのではなく、日本のことを伝え、ベトナムのことを学べるという、これこそが交流だと感じました。

3. ホーチミン市での観光

水上人形劇や、統一会堂、戦争博物館などに行きました。一緒にホーチミン師範大学の学生が来てくれました。案内をしてくれたり、説明したりしてくれました。一緒に行こうと手を取ってくれたり、バイクが多いため、「気をつけて」と車道側を歩いてくれたり、安心して街中を歩けました。大学近くのおいしいプリンのお店や、カニスープのお店なども連れて行ってくれて、一週間だけでしたが、ベトナムの大学生気分を味わうことができました。



4. フィールドスタディ

私たちの班は、医療と健康について調べました。実際にベトナムの 175 陸軍病院に行かせていただきました。想像以上に大きな病院でした。「さくら介護研究センター」という日本の自動ベッドなどの設備が置かれているところを見学させていただきました。三重大大学の看護学科にも置いてあるものが多くありました。175 陸軍病院で働いている看護師、大学生や専門学生、また日本で看護師、介護士として働くときに、この施設でトレーニングをすることで、スムーズに仕事をできるようにという目的でした。練習する施設があるのは、患者さんにとっても、看護師にとっても安心してできると思いました。ベトナム人の方にアンケートをして、インフルエンザでは病院にはあまり行かないという統計が得られて、驚きました。国によって病気のとらえ方が違うことを実感しました。一緒に病院に行ってくれたり、アンケートを作ってくれたり、調査がうまく進められるように助けてくれました。食文化について話し合いを進めていくと、食べる順番が異なったり、日本では当たり前前のことが当たり前ではなかったりすることを話し合うまで知らなかったことを知れて、面白かったです。うまく意思疎通ができないときもありました。しかし、言葉を言い換えてみたり、例を出してみたり、伝えようとしてくれること、伝えたいことをお互いが理解していくまでも、クイズのようで、わかりあえた時はうれしいと思うと同時に目には見えない絆のようなものを感じました。最後には、発表も協力してやり遂げることができ、さらにグループの仲が深まったように感じました。

5. おわりに

他にもまだまだ書きたらないくらいです。日本に帰ってきてから、ベトナムが恋しく感じています。もう一度ベトナムに行きたいです。また、この研修をもっともっと楽しくしてくれたのは、他の 4 人のメンバーです。みんなで、アオザイを着たり、Suoi Tien Theme Park（スイティエン公園）へ、おそろいの T シャツを着て行ったりと、自由時間もとても充実したものとなりました。

このベトナム研修を無事に、かけがえのない思い出として終えることができ、奥田先生、松岡先生、三重大大学の国際交流センターの方々、ホーチミン師範大学の先生、学生さん、一緒に参加したメンバーに感謝しています。ありがとうございました。



ベトナムと私

生物資源学部 生物圏生命化学科 佐次田 もも



道路を埋め尽くすバイク、色とりどりの看板、そして夏の香り。「これがベトナムか...」初めて見る東南アジアの風景に息をのんだ。ベトナム南部に位置するホーチミンは四季がなく一年中夏らしい。私たちが日本を出発したのは三月十日でまだ肌寒い季節だったので、ホーチミンの暑さに時間を越えて夏まで飛んだような感覚になった。飛行機からおり、ホーチミンに到着した私たちを圧倒させたの

は感覚だけではなかった。空港から走らせたバスの中で、三重大生の五人は興奮気味で、窓の外に流れる景色にくぎ付けだった。とにかくたくさんのバイクがバスの横を走っていく。鳴りやまないクラクションの音に驚きを隠せなかった。

私たちはベトナムへの渡航に先立ち、奥田先生のもとベトナムの勉強会に参加していた。ベトナム語の簡単な挨拶から自己紹介、ベトナムの食べ物や観光地、歴史。自分なりに調べたつもりでいたが、百聞は一見に如かずであった。何度も画像を見たはずのサイゴン中央郵便局やサイゴン大教会も、心の底から感激した。フランスの影響をうけた建造物は、どこか雰囲気も異なっていた。食べ物も非常に豊富であった。南国のフルーツから、魚介類、肉、香草まで食べるものすべてがおいしくて、毎回の食事が楽しみでしかたなかった。

この十日間という短い期間で、ベトナムのことが大好きになった。にぎやかなドンコイ通りやおいしすぎるベトナム料理のせいでもあるが、一番の要因はかかわったベトナムの方々だ。バスの運転手はとても印象に残っている。とてもまじめに仕事し、水をすすめても工作中だからと断ってただひたすら私たちの送迎をしてくれた。最後の日、空港まで送ってくれたときも、先生方がお礼を渡していたが、やはりいつも通りなかなか受け取らなかった。しかし、吉松先生が「For your family」と言うと、その運転手はお礼を受け取った。私は胸が熱くなった。家族を大切にする気持ちは日本もベトナムも同じなのだった出来事だった。そして、一緒にフィールド調査をした三人のメンバーはとても私たちに気にかけてくれた。私がミスをした時でも「全然、大丈夫ですよ。私たちは、同じチームですから。」とメッセージをくれた。ご飯に誘ってくれ、最後の日には写真を添えた手紙を用意してくれた。出会ってから一週間しかたっていないと思えないほど、私はこのメンバーのことが大好きになり、お別れの日はとても寂しくて泣いたのが本音である。

ベトナムに行って、ベトナム人の学生と接して強く感じたことは、私もベトナム語を理

解できるようになりたいということだ。ホーチミン師範大学の学生は日本語を専攻しており、私たちがいる場面ではなるべく日本語を話して私たちにもわかるように努めてくれた。すごく嬉しかったし、日本語を専攻している学生という点においては当たり前かもしれない。だが、私は受け身になってしまうのが少しもどかしかった。せっかくベトナムに行ったのにちょっとした挨拶や、ぎこちない自己紹介しかできないのはもったいないと感じた。ベトナムに縁があったのだから、勉強してみようと考えている。そしてもう一度ベトナムに行きたい。これから近い未来、AIが発達してどんな言語であっても瞬時に翻訳できるかもしれない。それはもちろん人件費が抑えられるため低コストで、あらゆる言語に対応でき便利ではある。しかし、人と人とのコミュニケーションの中で、身振り手振りで伝わったときの喜びは何にも代えがたいものだった。私はその人と人とのつながりを大事にしていきたいと強く感じた。

このベトナムフィールドスタディで得られたものはとても大きく、私の人生の指針なるに違いない。一緒にベトナムへ行った仲間も言っていたが、この十日間の経験が、将来のために有意義な大学生活を送ろうと努力するエネルギーになると思う。ホーチミン師範大学の学生が一生懸命勉学に励む様子に刺激された。私も負けていけない。今できることを精一杯頑張ろうと強く思った。

最後に、私たち三重大学生を受け入れてくださったホーチミン師範大学日本語学部の先生方、学生方、そしてベトナムフィールドスタディを引率してくださった奥田先生、松岡先生、吉松先生、一緒にベトナムへ行った三重大学の4人に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

ベトナムフィールドスタディ全体の感想

生物資源学部 生物圏生命化学科 川原 峻



1. 参加の動機

私がこのベトナムフィールドスタディに参加した理由はとても単純です。それは自分が行ったことのない場所に行ってみたかったからです。私は海外に行くのは今回が2度目で、1度目は高校生の時に行ったハワイでした。初めての海外旅行を経験して以来、海外への憧れが少し強くなっていました。そんな時にこのベトナムフィールドスタディの応募があり、同じ学部の友達が行くということもあって参加を決めました。

2. 出発までの準備

ホーチミン市は熱帯の地域なので、夏服を準備しました。私は夏服がちゃんとあったので新しく買う必要はありませんでしたが、新しく準備するとなると、日本は冬で夏服を売っていないことが多いと思いますので、準備が大変だと思います。ベトナムフィールドスタディは10日間ですが、服は4、5日分ほどあれば、追加料金でホテルのランドリーサービスを利用したり、自分で手洗いしたりすることもできるので足りると思います。ちなみに私たちは追加料金を払うのが嫌だったので、手洗いをして風呂場のカーテンレールに服を干していました。ただしこの時に注意してほしいのは、服を掛けすぎるとカーテンレールのねじが外れるので気をつけてください。私は下着を100均で買ってきて現地で捨てて帰れるようにしました。なるべく持ち物は使い捨て出来るものの方が、帰りにお土産を入れやすくなるし、家に帰ってからの洗濯物が少なくなるのでオススメです。服以外の持ち物に関しては、ベトナムに旅行をするときの持ち物を紹介しているサイトを調べて、それを参考にしながら準備しました。そのサイトでは持ち物を必要性の高さに応じて分けられていたので見やすかったです。現地が必要だと思ったものは、レンタルWi-Fiとタコ足配線です。変換プラグはホワイトライオンホテルもホーチミン市師範大学もどちらも日本のプラグに対応できるコンセントで、1度も変換プラグを使う機会がなかったので、ホテルと訪問する大学が同じなら準備する必要はないと思います。

3. 出発前に不安だったこと

・言語について

ベトナムフィールドスタディの事前勉強会でベトナム語を勉強していて、その発音の難しさに驚きました。そして現地では日本語も英語も伝わらないところがあると聞いていたので、ベトナムでの生活時や、学生たちとの交流の時にコミュニケーションがとれるかどうか不安でした。しかし、実際に現地に到着して、ホーチミン市師範大学の学生たちと交流すると、2、3年生はとても日本語が上手で、コミュニケーションに困ることはほとんどありませんでした。1年生との交流の時には日本語が伝わらないことも多かったのですが、写真を見せたり、ジェスチャーをしたりすれば解決することが多かったです。また、ホーチミン市師範大学の学生は英語を使える人が多かったので、日本語で伝わらなくても、簡単な英語を使って言い換えれば伝わることもありました。学生たちとの交流の時間以外の生活の時のコミュニケーションは、お店なら習った簡単なベトナム語は通じましたし、もし通じなくてもメニューを見せながら注文すれば大丈夫です。タクシーの運転手に行先を伝えるときは少し大変かもしれませんが。ホテルの通りの名前を言っても、私たちの発音が悪いせいか伝わらないことが多かったです。その場合は行先の住所を見せると分かってもらえました。

4. 全体の感想

ベトナムフィールドスタディに参加してみて思ったことは、本当に参加して良かったということです。ベトナムという国が心から好きになりました。日本とは環境や文化が違うところが多いので、車で移動している間に目に映るものすべてが新鮮で楽しかったです。ベトナムでは日本語が伝わる場面も多く、ほとんどコミュニケーションに不安になる必要はありませんでした。学生たちとの交流は特にコミュニケーションがとりやすく、楽しいものです。現地の食事が食べられるか不安な人も多いと思います。日本とは違ってハーブが出てくることが多く、そのハーブ自体は確かに食べにくいものもありましたが、それを料理と合わせて食べるとおいしくなります。10日間の食事を振り返ってみるとベトナム料理は本当においしいです。特に私が好きだったのは、バインセオとバインミーです。ベトナム料理といえばフォーと春巻きぐらいしか知りませんでしたが、バインセオとバインミーは食べたことのない人にはぜひ食べてみてほしい料理です。お店によって中身が違う料理も多いので、食べ比べをするのも楽しみの1つです。私にとってベトナムは未知の国で、ベトナムフィールドスタディに参加するのは勇気がいることでしたが、今では参加を決めて本当に良かったと思っています。



←バインセオ
バインミー



ベトナムフィールドステディに参加した感想

生物資源学部 共生環境学科 池貝 知広

「初海外研修」と聞いて、多くの人はどう思うでしょうか。不安、期待、憧れ、興味が
ない。答え無数に返ってくるでしょう。僕は、海外はこれで2度目、勉強の一環として海
外へ行くのは初めてでした。その行先は「ベトナム」の「ホーチミン」。ミャンマー、カン
ボジア、ベトナム当たりの地域を思い浮かべると、社会情勢が不安定で、物騒じゃない？
と不安になるかもしれません。事前にベトナムについて下調べすると、ボッタクリやスリ
には気をつけろ、変に話しかけてくる人や怪しいタクシーがたくさんある、といった怪し
い評判ばかり。そんなベトナム、ホーチミンの実情はどうだったのでしょうか。

まず、街並みについて紹介していきます。

なんといっても驚くのは、バイクの数。川のように流れてくるバイク、多すぎて歩道
の上を走ってくるバイクもあり、その迫力はとても表現しきれないです。しかも、バイクに
2人乗りするのは日常、3人、たまに4人乗せているバイクもちろほら見られます。また、
ドライバーがデザインの面白いヘルメットをかぶっている姿もなかなかユニークです。し
かし、排気ガスが多いせいか、空気はあまりきれいとは言えませんでした。また、道端に
ごみなどが多く落ちており、汚れています。ベトナムは急速に経済的な成長を遂げつつあ
り、高度経済成長期の日本のように経済発展のために環境を犠牲にしているように思えま
す。

店並びは、通りによって違っていました。僕が泊まっていたホテルがあるカオタン通り
は、飲食店やファッションショップが立ち並んでおり、観光客が集うサイゴン通りは、雑
貨店や両替所や飲食店、ファッションショップが多くあり、高いデパートやホテルも集ま
っていました。加えて、屋台や露天商が多く、商品売りつけようと、とにかく声をかけ
てきます。

現地の人の日本語が上手なことにも驚きました。日本人は金持ちのイメージがあるらし
く、こちらが日本人だとわかると「お兄さん、これ安いよ！」と日本語で話しかけてき
ます。

現地のレストランに入ると、やはり、日本語の上手な店員さんが話しかけに来て、「この
店有名だよ！」「日本のテレビにも出たよ！」と店のアピールをしてくれることがあります。

とにかく、人と人との距離感が近く、活気のある町でした。まるで、日本のアメ横にい
るみたいな空気。いろんな人が話しかけに来ます。しかし、この雰囲気は、今、経済成長
している途中のベトナムだからこそ味わえるものかもしれません。今後、経済成長してい
くうちに、ベトナム人にとって高価な車を買う人口が増えていき、労働改革がなされ、露
天商がなくなり、人々はより良い場所で働くようになっていくと思います。そうすると、
ホーチミンらしさが消えて、少し寂しいです。

次に、ベトナムでフィールドスタディを行った感想について述べていきます。10 日間の

ベトナム研修でホーチミン師範大学の学生たちと、ベトナム語や日本語の授業を行う、農業についてベトナムと日本を比較する、観光地や歴史的な遺産の保存された場所へ現地の学生と一緒に周る、食事を一緒にする、などの交流を通して多くのことに驚き学ぶ事が出来ました。まず、勉強量の違いです。僕たちが訪れたホーチミン師範大学は、ベトナムでもかなり偏差値の高い大学ではありましたが、さすがに、日本よりも勉強できる環境は整ってないだろう、だから、学力的には日本の大学のほうが上だろうと考えていました。しかし、現地の学生達は英語をとてもしゃべれるように話して、中には、ベトナム語、英語、中国語、日本語の4か国語を話す事が出来る人もおり、日本は今の時点で学力的にベトナムに追い抜かされていると思えるほどでした。また、現地の学生何人かに勉強時間を聞いてみたところ、「中高時代は、受験のため、学習センターという場所や、先生の自宅など、いろいろな場所を活用し、1日8時間勉強していた。大学の今でも、週末以外は1日3時間勉強している」「今日も家に帰ったら寝るまで勉強する」と言った学生が大学1年生にもいました。これを聞いて、僕も勉強しなければと思いました。また、現地の学生が日本語を話している姿を見てとてもうれしく感じ、加えて、ベトナム語をしゃべれるようになって、現地でできた友達達とまた会った時に普通に話せるようになりたいと思い、僕もベトナム語を勉強したいと思いました。

ほかにも見習うべきところがありました。それは、現地の学生はノリがいい。授業中に、クラスメートや先生と積極的に議論し、明るく活発に場を盛り上げ、質問や疑問や賛成するときに積極的に手をあげます。明るく元気な反面、少し自由すぎると感じることもありました。授業中に写真を撮ったり、電話がかかってきたら退出して外で電話をしていたりと、日本ではありえないような行動も多々見られました。でも、教室自体も外窓がなく手、風通しがよく開放的であることや、食堂や自習室が室外にあることが、とてもものびのびとできていてうらやましいと思える部分もありました。そんな元気な学生たちと交流することで、少しずつこの積極的な雰囲気を自分の中に取り込んでいきたい、普段の授業に対しても前向きな気持ちで楽しんで取り組みたいと思えるようになりました。

日本とベトナムの文化の違いの面白さにも気づきました。特に食文化の違いについてです。現地の人は、味の濃いものが好みらしく、和食は味が薄いといわれました。また、健康志向が強く、野菜や健康に良さそうな苦いものを積極的に食べ、栄養バランスを考えた食事をするようにしていると多くの人が言っていました。さらに、辛いものがとても好きで、料理はほとんど辛いものばかりで、舌が腫れるほどの辛い物を平気で食べるようなベトナムの学生もいました。ほかにも、ある学生が持ってきたペットボトルに何やら黒い液体が入っており、飲んでみると、苦くて甘い草のような薬のような味がしました。聞いてみると、暑さ対策の飲み物で、かなり多くの家庭でつくられている飲み物らしいです。このように、多くの面白い発見があったベトナムフィールドスタディですが、一番の成果は、一緒にフィールドスタディに参加して、色々なことに対して切磋琢磨しながら取り組んだ仲間と、ベトナムに来た自分たちをおもてなししてくれて仲良くなったベトナムの生

徒たちと、友達になれたことです。みんなを見ていて、自分に足りないもの、今後何を努力・習得していくかななどを深く考える事が出来ました。本当にいい経験・思い出・目標をこのフィールドスタディを通して得られました。本当にありがとうございます。

おわりに

平成 31 年 3 月 10 日～19 日の 10 日間、第 11 回目のベトナム・フィールドスタディ（以下 VFS）が実施されました。今年度は、プログラム実施の決定が例年より遅かったこともあってか、参加学生は例年より少なめの 5 名（生物資源学部 1 年生 3 名、医学部看護学科 1 年生 1 名、2 年生 1 名）でした。しかし、この少なさが幸いしたのか、メンバー同士の関係も大変良く、準備等も全員で協力し合って楽しく行っていました。その様子を見ながら、奥田先生と「頼もしいですね！」と喜び合ったのは一度や二度ではありません。

例年の VFS に比べ、今回はいくつかの点が違っていました。まず、例年行われてきたホームステイは、近年ホーチミン市師範大学の学生さんが地方出身の方が増えてきたということで、実施されませんでした。また、昨年まで行われていたベトナム人の先生による文化の授業もなく、その代わりに日本語学部の学生さんが協力し合って、大変楽しくかつ勉強になる手作りのベトナム語クラスを準備してくださいました。さらに、今回は例年よりも多くの日本語クラスに参加させていただくこともできました。1 年生のクラスでは、日本語があまりできない中で一所懸命コミュニケーションを取ろうとする 1 年生の姿に感銘を受けました。3 年生のクラスでは、三重大学生がパワーポイントを用いたり、実演したりしながら日本文化について紹介したり、日本語でディスカッションをしたりする機会をいただきました。

今回の VFS を通しての学びは、この報告書にあるとおりですが、今回引率教員として、また留学生に日本語を教えている教師として最も嬉しかったのは、私たちが帰国した後のことです。今回、ベトナムでお世話になった学生さんたちの内の 5 人が、この春から交換留学生として 1 年間三重大学に在籍しているのですが、その 5 人と、今回参加したみなさんが今でもいい関係を保って三重で交流を続けているのです。歓迎会、誕生日会、自宅でのパーティの他、一緒に授業を受けたりもしている姿を見ることができた時、この VFS に携わることができてよかったと思いました。10 日間だけの交流に終わらず、この一年、そしてできれば今後もずっとこの交流が続いていくことを心から願ってやみません。

VFSに関わってくださったすべての方たちに、心よりお礼申し上げます。（松岡知津子）



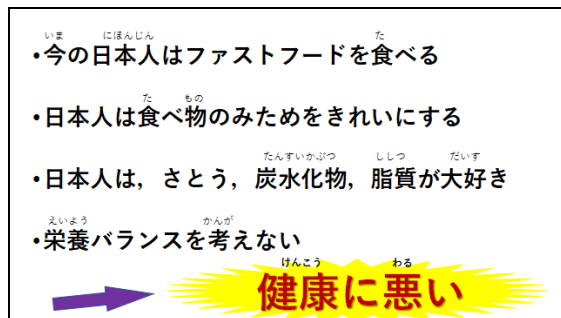
VI. 卷 末 資 料

1. 日本文化紹介
2. ホーチミン市師範大学との合同グループ
3. 修了証書授与式

1. 日本文化紹介 和食 (池貝知広)

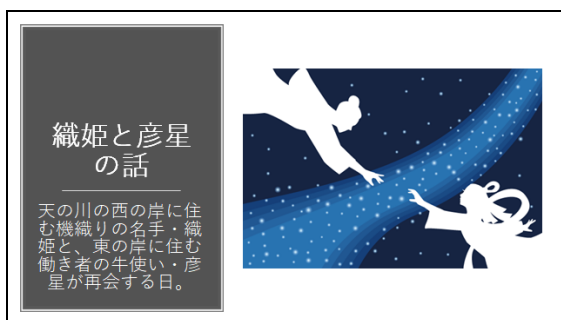
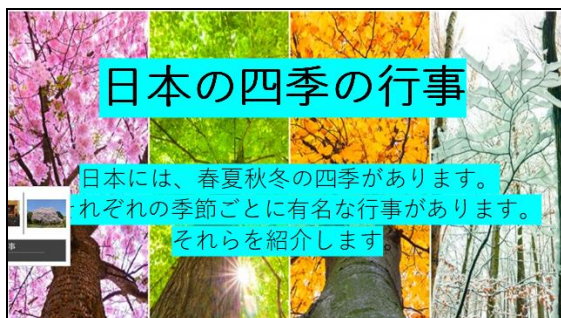
和食

Japanese food



でも、いいところもある！

- おつしょくじ
• 落ち着いて食事ができる
- しんせん たもの
• 新鮮な食べ物が食べれる
- おいしい





秋といえば・・・

日本の秋は涼しいので、いろんなことに挑戦できます。「〇〇の秋」という言葉がたくさんあります。具体的な例を紹介しましょう。

秋といえば・・・

- ・**スポーツの秋**：運動会（うんどうかい）が秋に行われ、学生はみんなで力をあわせて頑張ります。



秋といえば・・・

- ・**読書（どくしょ）の秋**
- ・**食欲の秋**



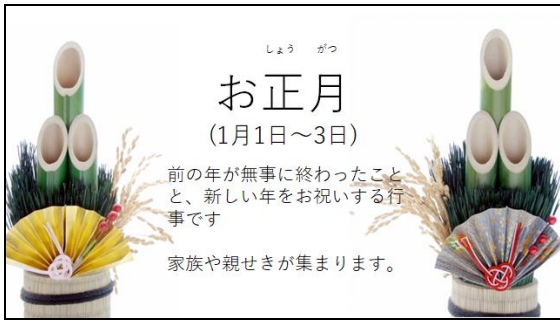
しょうがつ

お正月

(1月1日～3日)

前の年が無事に終わったことと、新しい年をお祝いする行事です

家族や親せきが集まります。



お正月

- おせち料理をみんなでたべる
- 羽根つきはバドミントンのような遊び。負けた人は勝った人に落書きされる。
- 学生も大人も休みなので、家族で遊ぶ。



ちびまるこちゃん

バレンタインデー (2月14日)

- 女の子が好きな男の子にチョコレートやお菓子をプレゼントする日。
- 友達にあげることを「友チョコ」
- 好きじゃないけどあげることを「義理チョコ」




ありがとうございます ございます

© dak

日本の遊び（阿部まりや、片岡奈都実）



目次

室内の遊び	外の遊び
①折り紙	①鬼ごっこ
②あやとり	②かくれんぼ
③すごろく	③おしくらまんじゅう
④けん玉	④はないちもんめ
⑤福笑い	

①折り紙

- 正方形の紙を折って動物や身近なものなどの形を作る日本伝統の遊び。
- 折鶴は、一番知られている作品。

折り鶴や千羽鶴を、幸福祈願（幸せを願う）、病氣回復（病気が治る）などの願いを込めて、被災地や入院患者に送る習慣がある。

また、千羽鶴は、世界平和の象徴としても知られ、広島平和公園などに供えられている。

千羽鶴

広島平和公園

バックンチョ

つる

ハート

しゅりけん

②あやとり

一本のひもを輪にして、両手の指にひもを引っかけたり、外したりしながら、ほうきなどのものの形を作る。

一人でやるのと、二人でやる、やり方がある。

ほうき

東京タワー

四段はしご

③すごろく

サイコロを振って、出た目に従って、ます目にある駒を進めてゴールに近づけるボードゲーム。

④けん玉

けん玉は手で持って遊ぶ日本の伝統的なおもちゃ。長い間、子供だけでなく大人にも楽しまれてきた。

けん玉の多くは木製で、先がとがっていて十字状の三つの皿を持つ「剣」と、穴の空いた「玉」で構成されています。「剣」と「玉」とは数十センチの糸で結ばれている。

今では、世界的に有名なけん玉の大会もある。

⑤福笑い

目隠しをして、輪郭だけが描かれたお多福やおかめの絵の上に、別に厚紙で作った目・鼻・唇などを並べ、出来上がりのおかしさを楽しむもの。

お正月に昔はやっていた。

⑤福笑い

なぜなら...
福笑いは、出来上がったものや、作っている途中のものを見て、みんなで笑い合うことから、「笑う門には福来る」ということわざのように、
新年の幸福を願うため、お正月に遊ぶようになったのではないかと
言われている。

「笑う門には福来る」の「門」は、家や家族という意味があり、
いつも笑っている家族には、自然に
幸福が訪れるという意味。



遊び ～外編～

①おにごっこ

メンバーからオニを一人決め、それ以外のメンバーは決められた
時間内に逃げ、オニが他のメンバーに触ればオニが交代し、
遊びが続く



②かくれんぼ

• 鬼は壁や柱といった、もたれかかることができる場所に顔を向け、腕で目をふさぎ、数を大声で数える。この声が聞こえている間に他のメンバーは鬼に見つからないような場所にかくれる。

• 数え終わったら...

鬼が「もういいかい?」と聞く。

隠れたメンバーは

OK→「もういいよ」→鬼は探す

まだかくれていない→「まだだよ」→鬼は待つ



③おしくらまんじゅう

参加者はお互いに背を向けて円陣を組み、両側に立つ参加者の腕に自分の腕をからめる。「おしくらまんじゅう、押されて泣くな」という掛け声とともに、勢いをつけて自分の体を円陣の中心に向けて押し込んだり、外側へ向けて引っ張ったりする。

体があたままる

参加者それぞれが不規則な動きをするために思いがけない方向に引っ張られたりするのもおしくらまんじゅうの楽しさのひとつである。



④はないちもんめ

• 1、それぞれの組は手をつないで一列に並んで向かい合う。



2、どちらからか(2回目以降は前回に勝った方)
「勝って嬉しい花いちもんめ」と歌いながら前に進み、
もう一組は後ろに下がる。



3、進んだ方は「め」の部分で足を高く蹴り上げる



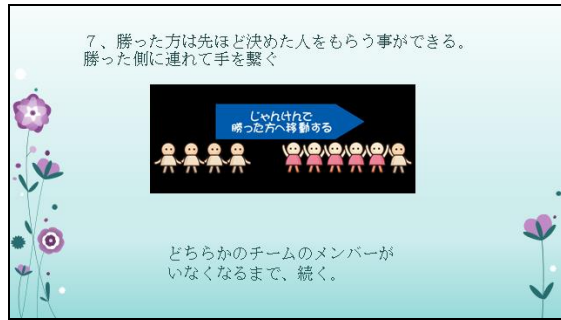
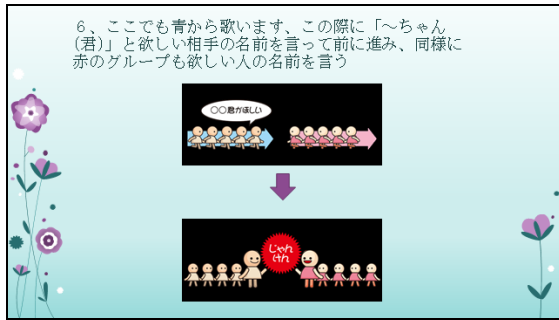
このように、歌が
続いていく

4、グループ毎に誰が欲しいか相談する。
ここで誰を選ぶと言う決まりは無いので自由に選ぶ。



5、決まったら「決まった」と叫んで、
両組が決まったら再び手を繋いで向かい合わせる





2. ホーチミン市師範大学との合同グループ

グループ	ホーチミン市師範大学生	三重大学生
保健医療 Chăm sóc sức khỏe	Đinh Thúy Quỳnh	阿部まりや 片岡奈都実
	Trương Tạ Phương Uyên	
	Phan Thị Ái Nữ	
	Huỳnh Thực Vân	
食文化 Văn hoá ẩm thực	Phạm Ngọc Minh Khoa	佐次田もも 川原峻
	Nguyễn Phương Anh	
	Phạm Hoàng Nguyên	
農業・水環境 Nông nghiệp Môi trường nước	Nguyễn Trúc Quân	池貝知広
	Mã Thái Vy	
	Đinh Ngọc Trâm Anh	



3. 修了証書授与式 Xin chúc mừng



